

2026(令和8)年度 所沢北高等学校同窓会 総会 次第

1. 校長挨拶
2. 伊藤会長挨拶並びに今後の同窓会ビジョンについて（別紙1）
3. 協議事項
 - 1号議案 2025（令和7）年度 事業報告
 - 2号議案 2025（令和7）年度 収支決算報告（別紙2）
 - 3号議案 会則の改定（別紙3）
 - 4号議案 人事案件（別紙4）
 - 5号議案 2026（令和8）年度以降 事業計画
 - 6号議案 2026（令和8）年度 予算計画（別紙5-1、2）
4. その他協議事項
 - 1 今後の同窓会イベント方針
 - 2 北高祭に関すること
 - 3 今後の部活動支援のあり方
 - 4 その他雑件
5. 閉会並びに小野副会長挨拶

2025（令和7）年度事業報告

現役生支援

- ・北高祭での記念グッズ配布
- ・全国大会出場部活への支援金贈呈
- ・部活動の大会・発表会応援、壮行会等への参加、記念品贈呈
- ・卒業証書ケース贈呈
- ・人材育成エンパワメントプログラム支援
- ・卒業ライブ支援
- ・朋翔館空調改善プロジェクト

広報活動

- ・北高祭パンフレットへの同窓会紹介掲載
- ・新卒業生同窓会入会式（50期）
- ・SNS アカウントの運営（公式 Instagram・LINE@・Twitter・Facebook）
- ・公式ウェブサイトの運営（<https://tokokita-obog.org/>）
- ・公式LINEスタンプの販売

卒業生支援

- ・CHEEKYS 全米大会支援

その他

- ・スタッフの拡充
 - ・同窓会名簿の管理、整備
 - ・備品管理（朋翔館2階）
-

2026（令和8）年度同窓会総会資料（第2号議案）

2025（令和7）年度 収支決算報告（別紙2）

別紙2 参照

同窓会会則の改定

1. 内容

現行 4,000 円の入会金（終身会費）を、10,000 円に改定する。

2. 改定の背景および必要性

(1) 物価上昇や社会情勢の変化

昭和 52 年の本会発足以来、約半世紀にわたり会費額を一度も改定することなく据え置いてきたこと。しかしながら、近年の物価上昇や社会情勢の変化は著しく、現行の価格設定のままでは、現代のニーズに見合った適切な組織運営および母校支援を継続していくことが極めて困難な状況。

(2) 現役生への支援需要の増加

多くの部活動が関東大会や全国大会に出場するなど、ここ数年の課外活動の発展には目覚ましいものがある。関東・全国大会へ出場する部活動等への支援をより安定かつ継続的に行うためには、安定的な財源確保が不可欠。

また、近年、教育活動についても著しく発展しており、これに伴い同窓会に求められる支援も多岐にわたっているところ。「人材育成エンパワメントプログラム」の実施支援、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校としての「海外研修」への助成、さらには学習環境改善のための施設改修への協力など、教育活動を安定的かつ強力にバックアップするための財政基盤の再構築が急務。

(3) 運営モデルのアップデート

これまで本会は、コスト圧縮のために SNS を中心とした無料の広報と、役員のボランティアのみによる運営を継続してきたところ。しかし、社会的な変化により運営モデルに限界が生じてきている。

SNS の細分化とリーチ低下： アルゴリズムの変化やユーザーの分散により、無料発信だけでは会員に必要な情報が届きにくくなっています。

ボランティア運営の限界： 無料での質の高いコンテンツ制作（会報やイベント運営）の継続が困難になっています。

3. 実施予定時期

本則としては 2027 年 3 月卒業生より適用するが、初年度の集金実務において以下の経過措置を適用する。

本則： 入会金（終身会費）は 10,000 円とする。

経過措置： 令和 8 年度（2027 年 3 月）卒業生に限り、改定初年度の学年費徴収状況を鑑み、学年費残額から徴収可能な上限額をもって入会金に充当することを認める。

※今年度の学年費は旧会費（4,000 円）を前提に予算化されているため、追加徴収による学校側の事務負担を避けるための措置。

4. 会則改訂案

別紙 3 参照

5. その他

・保護者配布文書にて「入会を希望されない場合や、会費納入に関する相談」の窓口（同窓会事務局）を明記し、透明性の高い徴収を行う

・同窓会の活動内容がわかるコンテンツ（パンフレット等）を新たに作成し、同窓会活動についての理解醸成を行う

人事案件

【組織】

- 会長・副会長（二役）
- 会計監査
- 会計
- 幹事
- 代表理事

【各担当活動内容】

- 二役 : 各担当の統括、同窓会会員名簿の整備、各種支援の検討、
臨時支出の決済、学校との連絡
- 会計 : 活動費の管理、精算
- 会計監査 : 決算報告の監査
- 幹事 : 重要事項の企画・立案・庶務、同窓会組織運営、各担当の補助、
各種渉外活動
- 代表理事 : 各種活動の実働（卒業生担当、現役生担当、広報など）
- 学年理事 : 同期との連絡担当（学年卒業期ごとに選定）

【改選案】

別紙4参照

2026（令和8）年度 事業計画

【2026年度事業計画】

2026年6月6日 理事会

9月12日、13日 北高祭への支援

2027年3月12日 新卒業生(51期生)入会式

【2026年度以降 事業計画検討事項】

■卒業生の親睦、サポート

部活動や学年での同窓会のサポート事業

※幹事をサポートする仕組み・プランの構築

就活生、大学生向けサポート事業

同業種、異業種交流、転職支援、子育て支援

■広報活動

公式WEBサイト運営

SNS発信<<Facebook, Twitter, Instagram, Line 公式アカウント>>

公式アドレスでのメール対応

■現役生サポート

部活動支援〔激励費、試合応援、発表会の広報・支援〕

北高祭支援（50期学年理事主導・49期がサポート）

SSH支援

卒業ライブ支援

■組織運営

同窓会説明資料の作成

二役（会長、副会長）：会議・式典への参加、本会目的に関すること

同窓会名簿の整理（小野ひ、筒井）

スタッフの管理、拡充 <各代の卒業生とのネットワーク拡充>

同窓会説明資料作成

■その他 本会目的に関すること

寄付金回収について

2026（令和8）年度 予算計画

別紙5-1、2 参照

今後の同窓会イベントについて

1. 背景と基本方針

これまでは、5年に1度の大規模な同窓会周年イベント（「LINK3」）を中心に据えてきたところであるが、これらは企画・運営にかかる理事の負担が極端に高く、属人的な運営に依存せざるを得ないため、組織の持続可能性の観点から大きな課題を残している。

そこで当面は、「役員主導の大規模イベント」から「会員主導の小規模イベントへの伴走支援」へと舵を切ることを検討したい。理事の運営負荷を最小限に抑えつつ、会員同士の「小さな火（日常の接点）」をコンスタントに灯し続ける仕組みへの転換を図る。

2. 運営体制の変革

イベントの継続において最も重要なのは、一部の役員がすべての実務を背負うのではなく、「一緒に運営してくれる仲間」や「各代のキーパーソン」を発掘し、世代を超えた新たなコネクション（ネットワーク）を構築することである。

自律型運営への移行：理事が直接イベントを企画・運営するのではなく、各代の有志メンバーが主催するイベントの「後方支援（サポート）」を行う。

ハブ機能の強化：同窓会は、情報インフラ（公式LINE等）の提供や、過去の開催ノウハウの共有を行うプラットフォームとしての役割を担う。

3. 具体的な注力施策

まずは、最もニーズが高く、繋がりを維持しやすい「学年・コミュニティ単位の同窓会」のサポート体制を整備したい。

①既存の繋がり（学年同窓会）の維持・支援

各世代における学年同窓会の開催を促すきっかけ作りを行う。そのなかでも卒業生のネットワークが途切れるのを防ぐため、成人式後の同窓会が「毎年恒例」として自発的に開催されるよう、最優先でサポート体制（開催マニュアルの提供、学年代表者へのアプローチ等）を構築したい。

②テーマ型同窓会の展開

学年単位の横の繋がりに加え、共通の熱量を持つ「部活動（OB・OG会）」や「恩師（先生）を囲む会」など、縦・斜めの繋がりをテーマにした同窓会の支援についても順次検討を進める。

4. 大規模周年イベントの今後のあり方

同窓会が単独で主催する大規模周年イベントの頻度・回数は減らすこととしたい。また、母校との連動を高める契機として、2023年の50周年イベント同様に「学校の周年事業」に合わせる形に転換したい。

実施スパン：今後の検討課題とするが、10年単位ないし25年単位を軸にしたい。

次回開催候補：学校の節目となる「60周年」「70周年」「75周年」「80周年」等が選択肢となりうる。

5. 今後の検討事項

・ニーズの把握：各代の幹事が「どのようなサポート（名簿、案内状発送代行、会場紹介、補助金など）を求めているか」のヒアリング。

・支援メニューの策定：同窓会として「どのような金銭的・事務的支援が可能か」のルール化（学年同窓会支援パッケージの作成）。

北高祭での同窓会企画について

1. 担当

50期同窓会理事全員

2. 実施内容

- ①オリジナルグッズ（在校生向け）の配布
- ②広報スタッフとして当日北高祭に参加
- ③開会式でのアナウンス

3. 検討事項

- ・ 昨年は初めて屋内教室（多目的室）にもブース出展。今年度はどうするか。
- ・ 飲料販売の継続是非
- ・ 新企画の実施有無

4. 今後の動き

【6月～7月】

- ・ 49期→50期へ今年の引き継ぎ
- ・ 50期内で打ち合わせ実施。企画内容の検討。
- ・ 50期→同窓会副会長へ企画内容の報告、相談。
- ・ 学校へ企画書の提出（副会長）

【7月～8月】

- ・ オリジナルグッズの製作（物品検討、業者検討、デザイン、発注、支払い、納品調整）
- ・ パンフレット原稿製作
- ・ 企画の準備
- ・ 生徒会、学校との調整

【9月】

- ・ 必要備品準備
- ・ 北高祭への参加
- ・ SNS更新

【文化祭終了後】

- ・ SNS更新

今後の部活動支援のあり方

1. 背景と趣旨

「入会金（終身会費）の改定」が承認された場合、同窓会の財政基盤が強化され、2027年度以降の予算編成において、現役生への支援拡充に向けた一定の財政的余裕が生じる見込みです。

これに伴い、執行部では母校のさらなる活性化と、日々ひたむきに活動する生徒たちへの公平かつ効果的な還元を目指し、従来の部活動支援の支給基準を抜本的に見直す検討をしております。

2. 現行の支援制度とその課題

現行制度：関東大会または全国大会への出場を果たした部活動に対し、「一律 30,000 円」の支援金を支給。

現状の課題：

- ・関東・全国大会という高いハードルをクリアした部活のみが対象となるため、日頃から多くの部員を抱え地道に活動している部活動や、文化部など大会出場の枠組みが異なる部活動への支援が行き届きにくい。
- ・出場人数（個人戦・団体戦）や遠征距離に関わらず「一律支給」であるため、実際の遠征規模に応じた柔軟な財政補填になりきれていない。

3. 新たな支援制度の案

改定後は、一部の活躍にスポットを当てただけでなく、「すべての部活動の日常的な努力を支え、高みへの挑戦を後押しする」制度へのシフトを目指します。

① 全部活動を対象とした「ベース支援（ポイント制予算分配）」の導入

大会実績の有無に関わらず、母校に属する全部活動（運動部・文化部）への日常的な活動支援を行います。公平性を担保するため、以下の要素を数値化（ポイント化）し、それに応じて傾斜配分する予算枠を新設します。

部員数：所属生徒数に応じた基礎消耗品費等のサポート。

活動実績・規模：日頃の活動頻度や地域貢献度、公式戦・発表会の実績など（文化部も含めた公平なガイドラインを策定）。

② 成果・挑戦に対する「お祝い金（インセンティブ）」の継続・強化

従来の関東・全国大会出場への支援も、上記のベース支援とは「別枠」で維持します。

関東大会・全国大会等の上位大会へ進出した場合には、「お祝い金・遠征補助金」として追加で数万円（額は今後検討）を支給し、生徒の荣誉と挑戦を強力にバックアップします。

4. 主な論点

本案はあくまで検討段階であり、具体的な支給ルールや算定基準はこれから構築してまいります。ぜひ、以下の点についてOB・OGの皆様の視点からご意見をいただけますと幸いです。

- ・全部活動へのベース支援（ポイント制）という方向性に対するご意見
- ・「強豪部活に手厚くすべき」「広く薄くでも全員を応援すべき」など、同窓会としてのスタンスについて。
- ・文化部や特殊な活動形態の部活動における「実績」の評価基準について
- ・運動部のような「県大会・関東大会」といった分かりやすい指標がない文化部等に対し、どのような基準であれば公平性を保てるか。
- ・各部のOB・OG会との連携のあり方